

第 43 回 START プログラム (台湾)

2017 年 8 月 9 日から 8 月 23 日までの約 2 週間、第 43 回 START プログラムに学部 1 年生 16 人が参加し、引率の前田直樹講師 (社会科学研究科) ほか 2 人の職員とともに、台湾にある国立政治大学に留学しました。

現地では、2 クラスに分かれての中国語の授業のほか、日台中関係、戦後の台湾経済、人権問題などの講義を受けました。中国語の授業は、全てのレッスンにおいて中国語で行われました。始めは不安そうな表情をしていた学生も、日々の授業や宿題などを通じて着実に力をつけ、お互いに日本と台湾の違いについて説明、質問し合えるほどになりました。また、講義では、事前学習で学んだことと現地で実際に感じたことなどを各自で考察し、積極的に内容の濃い発言をしていました。

その他にも、台北二二八纪念馆や鄭南榕纪念馆を施設見学し、台湾の戒厳令や言論統制について学びました。鄭南榕纪念馆では、国立政治大学、台湾師範大学の学生と「民主化」について意見交換を行い、自分たちとほぼ同年代の学生の意見を聞き、刺激を受けたようでした。また、グループに分かれて、現地の学生とともに中正紀念堂や龍山寺などの見学に行きました。見学中には中国語、英語を駆使して個々の趣味や興味のあることなど幅広い話題について情報交換をし、交流を深めました。

国立政治大学滞在最終日には、4 グループに分かれ、各自が関心を持った台湾に関するテーマについてグループ発表を行いました。考察し独自の結論を導くことの難しさを痛感しつつも、話し合いを重ね、台北市内街頭でのインタビューや官公庁訪問などの現地調査に基づいた発表を行いました。発表後には質疑応答が活発に行われました。中には鋭い質問や意見もあり、本プログラムを通して多角的な物の見方ができるようになったことが窺えました。

週末は、台東・緑島での緑島人権園區にて白色テロ強制収容所関連施設等を見学しました。かつて収容されていた 87 歳の方に同行いただき、当時の体験談を交えた大変貴重な説明を聞くことができました。理不尽な弾圧があった事実には衝撃を受け、戦後台湾のたどった複雑な歴史について、改めて理解を深めました。

今回の START プログラムでは初めて中国語を学ぶ学生も多数いましたが、毎日予習復習を欠かさず行い、授業で覚えた事を商店での買い物などの日常生活で実践することにより、日に日に上達していました。現地の人々との交流を通じ、外国語によるコミュニケーションの難しさや自分の意思を伝えることの重要性を認識し、事後研修の際にも「今後も語学の勉強を続けてスキルアップしたい」と学習意欲をみせている学生が多数いました。他にも「長期留学に挑戦したい」、「グループ発表で学んだ事を、これからの学部の発表に生かしていきたい」、「台湾の学生のように、自分の国の文化や歴史などを説明できるようにな

りたい」など、今回の START プログラムを通して得られた様々な経験を生かしそれぞれの目標に向かって、挑戦していく決意を新たにしていました。



毎日のように通った政治大学。
授業は全て中国語でした。



日台中関係や人権に関する講義を
日本語・中国語・英語で受講しました。



エクスカーションでは、台東・緑島の
緑島人權園區を見学しました。



グループ発表では、
発表者も聞く側も真剣です。